

### 3. ヒロシマ / Hiroshima



No.43 昭和天皇のご到着を待つ子どもたち  
広島駅付近 1951年10月  
Waiting for the emperor, near Hiroshima  
Station, Oct.1951

子どもたちが何時間も天皇陛下の  
通過を待っていた。

—レポート「JAPAN」

### 4. 永遠なるもの 日本 / Forever Japan



No.60 明治神宮 東京 1951-52年  
Shinto priests in the court of the Meiji Temple, Tokyo 1951-52

## ワーナー・ビショフ略年譜

1916	4月26日、チューリッヒに生まれる。医薬品会社に勤める父親の転勤に伴いドイツのヴァルツフトへ越し、小・中学校時代をここで過ごす。
1932	学校に満足せず、チューリッヒの美術学校へ転入。1年後、ハンス・フィンスラーが創設した写真学部の生徒第2号となる。フィンスラーに影響を受け、自然の中のフォルムや生物などの写真を多く撮る。
1933	学位を取得し、兵役を経た後、チューリッヒに独自の写真およびグラフィック・アート・スタジオを開く。雑誌やポスターなどの為にファッション写真を手掛ける。
1946	ベルリンとウィーンに滞在。夏にはスイスの救済団体の取材で、イタリアへ赴く。ミラノで将来の伴侶、ロゼリーナ・マンデルと出会う。秋から翌年の春までギリシアで過ごす。
1949	ロゼリーナと結婚。英国で「ピクチャー・ポスト」誌、「オブザーバー」誌などの仕事をする。「マグナム」のメンバーになる。
1950	イタリア、パリ、英国、アイスランドをまわる。雑誌「エポカ」「イラストレーテッド」などの仕事を手掛ける。長男マルコが生まれる。
1951-1952	マグナムの仕事で、インドへ渡る。ビハールの飢饉が「ライフ」に掲載され、国際的評価を受ける。7月、東京へ飛び、1年余りを過ごす。その間に、韓国、沖縄などに戦争特派員として派遣される。1952年春、香港に渡り、夏には「パリ・マッチ」誌の特派員として、インドシナ(当時)へ赴く。年末、スイスへ戻る。
1953	日本についての写真集を手掛ける。(1954年発行。)「ドウ」誌で、「極東の人々」特集。同じテーマの写真展が、チューリッヒで開催される。秋にはアメリカへ渡る。
1954	春、ロゼリーナと2人で、「南米豪華ツアー」と銘打っての旅行に出かける。マグナムのプロジェクト、「いま、女性は」シリーズの取材も兼ねていた。ロゼリーナは途中、メキシコ・シティーからスイスへ帰国。ワーナーはそのままパナマ、チリ、ペルーと旅を続ける。5月16日、乗っていた車がアンデスの谷間に転落し死亡。9日後、次男ダニエルが生まれる。

※ スイス建国 700 年記念写真展「ワーナー・ビショフ 1916-1954」図録より一部抜粋

## イベントの開催

会期中、下記の日程でイベントを開催します。

## ギャラリートーク

特別企画展会場内で、ご子息マルコ・ビショフ氏に父ワーナー・ビショフについてお話しいただきます。

平成21年3月29日(日) 14:00~15:00

## 展示解説

平成21年3月21日(土)、4月4日(土) 14:00~ 45分程度

問い合わせ先：昭和館学芸部 03-3222-2577

担当：新城・渡邊